

# きずな通信 No.26



2017年9月1日  
発行 みやぎ地域づくり交流会  
事務局 宮城公民館内

## 地域づくりは人づくり、ふるさとづくり

まえばし23地区が

交流フェスタ開催

地域自慢の特産品や

音楽で親睦深める

前橋市内23地区の地域づくり協議会で構成する「前橋地域づくり連絡会」は6月18日街なか中央イベント広場で交流フェスタを開催しました。

各地区の会員がステージ発表や地域特性を生かした飲食物でもてなしました。みやぎ地区は独自に考案したゆるキャラTシャツや地元の若葉高等学校様と共同制作したキャラクタークッキーを販売。

また野外ステージでは、ぶつちさんこと岩淵健二さんによる地域ネタギター弾き語りを披露し会場内を笑いで沸かせました。

その笑い声を聞きつけ通りすがりの家族連れが多数訪れ大変賑わったフェスタとなりました。フェスタは今年で11年目を迎え、街なかで行うのは2回目で、今後地元商店街との活性化が期待されます。

(大崎博之 記)



市長も参加、好評だった  
三夜沢あずきゲーム

交流フェスタを

振り返って

7月24日 前橋テルサで交流フェスタの反省会に参加しました。

みやぎ地区からは、前原清さん、大崎博之さんの2名が出席しました。前橋23地区の活発な意見が交わされ、「次回も街なか中央広場でやりたい」という意見が多く来年度に向けた各地区の出し物の意気込みが感じられました。今回のみやぎ地区(Tシャツ、クッキー)ブースも大変好評で、中でも体験コーナーの三夜沢あずきコーナーが大変好評を得ました。



会議後の楽しい懇親会

## 宮城地区納涼祭に参加



ハナイン博士

地区納涼祭が8月6日行われ、地域づくりでは恒例の数当てドンのお手伝いと、みやぎオリジナルTシャツの販売、エコキャップ回収を行いました。

オリジナルTシャツは、昨年作成したTシャツのイラストを今年も利用し、シャツの色を黒と白として販売し好評を得ました。

そして、数当てドンですが例年

以上の380名の参加をいただきましたが、突然の雷雨で納涼祭が中止となり結果が発表できずに終わってしまいました。参加していただいた皆さん大変申し訳ありませんでした。今回の件を反省点とし、今後は同様の事態となっても対応できる様に、実行委員会で相談したいと思えます。

来年もぜひ参加をお願いします。

(上野記)



年々飾り付けがUPしています

## まえばし 若者会議・地域おこし協力隊合同会議行われる

8月1日に、みやぎ地域づくり交流会の会議が行われました。この中で、前橋の地域若者会議が中心となり前橋市地域おこし協力隊、みやぎ地域づくり交流会のコラボで、12月16日に「地域文化財キャンプ in みやぎ」古民家借りてミンカ?」を実施したいという話がありました。

その内容は、阿久沢家住宅を拠点にして地域住民と交流して楽しむプログラムです。例えば、宮城地区の食材を使つてのバーベキュー、夜の星空鑑賞会、赤ちゃんの寝相アート、WAKAMONO 落語等いろいろで、詳しい内容は後ほどお知らせします。

ともかく、地域若者会議、地域おこし協力隊の皆さん、とても熱い人たちのので面白いキャンプになると思えます。

この企画に興味ある方は参加してみても、如何でしょうか。

(洪澤記)



宮城公民館にて打合せ

## エコキャップ活動 目標を大きく上回る

福祉交流部会では、6月28日エコキャップ仕分け作業を行いました。例年以上に回収が進んでいます。今後もよろしくご協力をお願いします。



## 宮城地区のよもやま話 ② 「市之関」地名語源考察

地名の起源は、地形・地質・気象などその地域の自然に由来するものが多い。しかし、市之関は物流の場である「市」や交通の要所である「関」があつたとは思えない。そこで「一の堰」が変化して考えていたが根拠がなく決めかねていた。しかし、ある日、阿久沢徳男さんに羽黒堰を案内していただき、将に「一」が起源であろうと感じた。市之関の田の約70%を潤し、生活基盤の源である堰の重要性を認識し、一番重要な堰、つまり「一の堰」を地名にしたのが「市之関」に変化したのではないかと推測した。

岩手県一関市も、北上川の氾濫を防ぐ「堰」から「関」に転じた。また、新潟県胎内市の一之堰は、胎内川扇状地の扇頂部にあり、貯水池があつたのでそのままの漢字で地名になっている。

逆に「関」から「堰」に変化した地名もある。福島県会津若松市の一ノ堰は、街道に関所があつたので当初は「一ノ関」だったが後に「一の堰」に変わっている。

(委員 五百部 正)